

アンカードシステムズ株式会社

大坂敏郎

代表取締役社長



011-699-2230

anchored.systems

北海道札幌市手稲区新発寒
5条7丁目6-10

ビジョン

在宅介護をされている方や、遠方で暮らす高齢の親御さんを持つ方に安心して暮らして頂きたい。そういう想いで簡単で便利な見守りシステムを開発しています。

在宅医療のDXでの注目サービスをお伝えする「進む在宅医療のDX化」。今回は「みまもりボタンキテネ」を開発されたアンカードシステムズ株式会社大坂敏郎社長です。これまでの歩み、開発ストーリー、今後の在宅医療へのDX化に向けた思いなどを熱く語っていただきました。（2025年3月取材）

現場監督、そして営業最前線にて活躍

大学・会社員時代はどのようなことをされていたのでしょうか？

工学院大学時代はソーラーハウスの研究をしていました。いわゆる再エネですね。当時はまだその分野の黎明期でした。ソーラーハウスの研究を始めたきっかけは当時の最先端だったからです。

卒業後は札幌の池田煖房工業(株)に就職しました。入社してすぐに現場の施工管理、いわゆる現場監督の仕事をしていました。最初は見習いのような形で先輩についていましたが、2年目からは一人で現場を任されるようになりました。

学校や郵政省、防衛庁などの公共機関の現場が多かったです。池田煖房工業は、昭和5年創業の老舗企業で、北海道の地元企業としては最大手でした。

池田煖房工業には、7年間勤務し、その後、日本ステファコントロールシステム(株)に大学時代の同級生に誘われて転職しました。ステファコントロールシステムは、スイスに本社がある自動制御システムの会社で、スイスから自動制御機器を輸入し、工事会社等に販売する仕事をしていました。

この時は札幌営業所の所長でしたが、技術営業の仕事をしていました。設計事務所に訪問して設計図に自社の製品を盛り込んでもらい、工事会社にはその製品を使うように働きかけるという営業スタイルでした。

今の仕事に繋がるプログラミングや自動制御システムの知識を習得したのは、会社が提供する教育プログラムからでした。



池田煖房工業の頃

親会社のステファコントロールシステムズは何度か買収されていますね？

ええ、親会社は何度か買収され、買収されるごとに会社は大きくなっていきました。最終的にはシーメンスビルテクノロジーという会社を買収され、その時に退職しました。15年間勤務しましたが、買収による日本法人の合併で、私が所属していた会社の社長が退任することになったんです。新社長とは個人的に合わない部分もあり、それならば自分で会社をやった方が良いのではないかと考えました。

起業は順調に進みましたか？

退職を決めて、すぐの2001年に起業しました。特に準備はしていません。ステファコントロールシステムの機器を自分で仕入れて販売していましたし、前職の時のお客様もいました。なによりも前職の社長からお客様を紹介していただいたのが大きかったですね。大手の会社を紹介していただき、順調なスタートを切ることができました。

事業内容を詳しく教えてください。

遠隔監視システムや省エネ工事などがメインでした。マンションの熱源システム、例えばボイラーなどのシステムを遠隔で監視するシステムを開発・販売しました。故障が発生した際に通知が来たり、温度を監視したりできるシステムで、メンテナンス会社がパソコンで状況を確認できるようにしました。前職のシステムをベースに開発したのですが、多くのお客様にご契約いただきました。

イオンショッピングセンターの仕事も手掛けられたそうですね。

はい。2001年頃、イオンがジャスコとして北海道にショッピングセンターを出店し始めたのですが、その中央監視システムの工事をNTTデータから受注して現場を担当しました。ショッピングセンターには多くの照明や空調設備があり、それらを管理するためのシステムや電力メーターの数値を読み取り、管理するシステムも必要です。札幌、旭川、苫小牧など、7箇所のイオンショッピングセンターの工事を担当しました。システム開発や現場管理は当時は自分一人でやっていた。工事は外注しましたが、特に旭川と苫小牧の現場は規模が大きく、大変でしたが、やりがいがありました。起業当初は遠隔監視システムとイオンショッピングセンターの仕事が、二つの柱でした。



介護にとって頼りになるサービスを目指して

社名に込められた想いをお聞かせください？

「アンカー」という言葉には、「固定する」「支え・よりどころ」という意味があります。ニュースキャスターをアンカーマンと呼びますし、リレー競技の最終走者もアンカーと言いますよね。お客様の想いを受け止め、ゴールまで導くアンカーでありたいという想いを込めました。「アンカード」と「ド」を付け加えることで、「頼りになる」という意味合いを強めています。今後はシステムで介護のお手伝いをしていきたいと考え、「アンカードシステムズ」という社名にしました。

また、経営理念は、「誠意」「貢献」「満足」の3つです。お客様の立場に立って行動し、省エネ技術で社会に貢献し、お客様の満足を追求することで、会社の満足も得られると考えています。

大学時代から省エネに関心があり、それが今の事業にも繋がっています。創業当時から・・・



続きはQRコードからアクセスしご覧ください → → →